

部の振範とすに違ふと確信する。
 自動車茨松町員全員の志氣益々旺盛。
 五日午後一時 争議團員中の在郷軍人、六十四名を動員し陸軍省並參謀本部
 に陳情し 幹部方面は可成好意を寄せられてゐる。各庭の一部は急造バラツ
 クを作り新聞社来訪頻々。地主其他の近隣より応援の物資を寄贈した。各
 種芳の團體、無産團體よりアジ、檄文等頻繁に送り来る。精神は極度に節約
 長期籠城可能なり。
 電氣部 赤坂、石川、青山、目黒各支部皆大元氣、
 神田支部員して港來行動中。
 徳田 三田支部、首腦部、各別籠城場所を訪問、説判完了。心算の要なし、
 両部同様に依り首腦部の行動が判りし一員兼人である。
 電車 三輪部 分指に依り移動しつゝ、ありて連絡は完全、他に異状なし。
 自動車 日馬支部 首腦部は短期地と各分指所を視察又は指導すべく赴くが却
 つてアジられたる様を状態、元氣益々旺盛。支部は争争ニエースと支部
 寫真班を動員し各職場の林勢、スヤマツプの運動旅り、争議團の活躍等の振
 子と各理員にニエース寫真に依つて報道してゐる。
 スヤマツプおし。
 疾病 一、β一計三名。敵首發表の影響却つて当局の反動を助長し効果的
 である。
 各支部の林勢報告書全部より出てゐる。指令もした。この全支部共必ず
 せられたい。尚籠城場所は応援團交總干原平に知らせる必要がある。乃至急
 報告され度し。
 以上

別記

スト情報 第四報 九月六日午後
 手議本部書記局

首腦部は今度ストは持久戦を覚悟し 持久戦により執拗果敢
 に戦はなくては勝利は期し得られないことを見通し本六日午前
 の指令で一ヶ月持久戦計画を指令した。我々の今度のストこそ
 眞に生か死かの戦であり、斗争か死か何れかを選ぶ以外に方法
 がなかつたのだ。一月三十五銭の給料で食へない以上我々は死
 を決して勝利する迄戦はねばならないのだ。
 當局は外部よりスヤマツプを狩り集めて運転してゐるが彼等は
 一日十六時間勤務だし長く続くものではない。又電氣局の被害
 は一日十万円を突破し一ヶ月のストに對する損害は三百万円を
 越ゆるであらう。此の負担市民交通機關を不安の絶頂に陥し入
 れた。市長局長の責任も死して市民と我々。前に陳謝すべきだ。